

1.5 姫川流域の主な天然ダムの位置と規模

姫川流域は日本でもっとも大規模崩壊（深層崩壊）や巨大地すべり地の多い地区で、姫川本川や支流ではたびたび河道閉塞され、天然ダムが形成されてきました。図 1.10 は、姫川と支流の河床縦断面図で、主な天然ダム 7 箇所の位置を示しています。

文亀元年十二月十日（1502.1.28）の越後南西部地震では、姫川本川右岸の真那板山が崩壊し、天然ダムが形成されました（石橋（2020）によれば、もっと古い可能性もあります）。また、同年頃に清水山でも地すべりに伴

う天然ダムが形成されています。正徳四年三月（1714.4）の信州小谷地震では、岩戸山が崩壊し、天然ダムが形成されました（約 2 万年前の岩戸山の巨大地すべりを含む）。明治 44 年（1911）8 月 8 日には稗田山崩れが発生し、崩壊土砂が姫川左支川の浦川を流下し、姫川との合流点付近で、天然ダムが形成されました。さらに、昭和 14 年（1939）4 月 21 日に風張山、昭和 42 年（1967）5 月 5 日に赤禿山が崩壊し、天然ダムが形成されました。

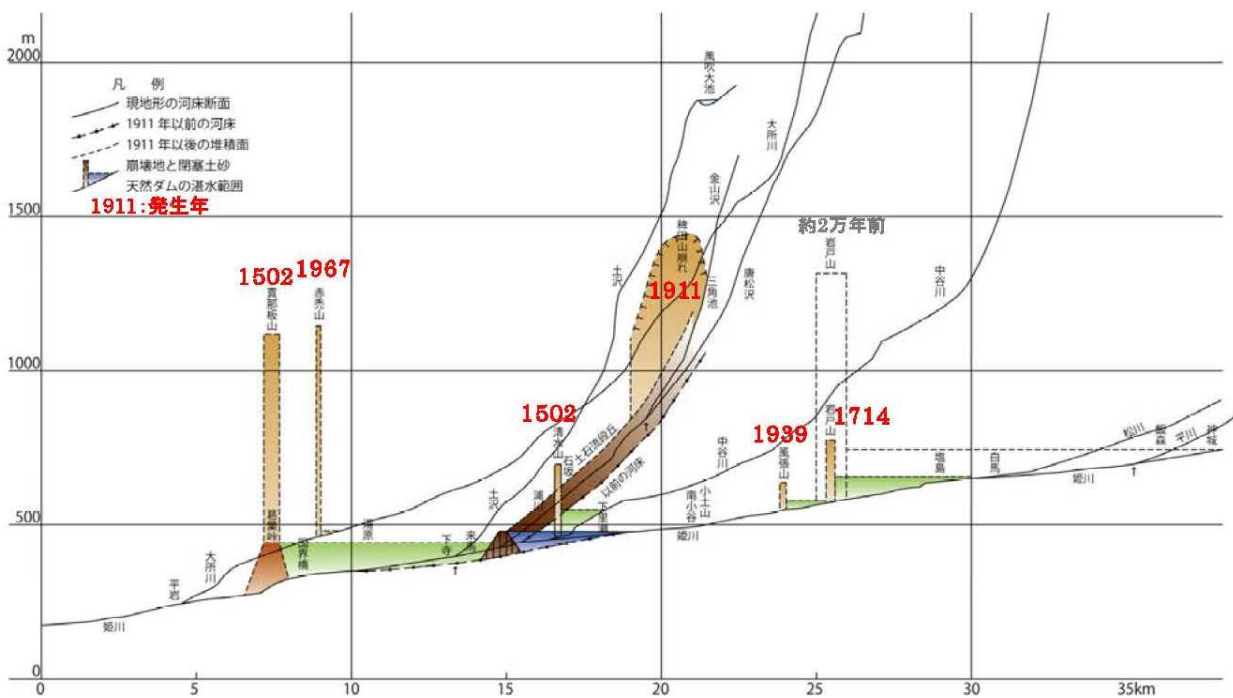


図 1.10 姫川流域河床縦断面における大規模崩壊と天然ダム湛水範囲位置図
（稗田山崩れ 100 年事業実行委員会（2011）に加筆）